

支援物資、義援金、寄付金

# 熱い支援に感謝

寄せられた義援金  
1,140件

8,898万 2,871円

(6月10日現在)

全国各地から義援金、寄付金  
が寄せられました。ご支援  
ありがとうございます。

5月11日～6月10日受付分  
(敬称略)

## 義援金

### ■県外■

- 【千葉県】 ▶浦安市郷土博物館
- 【東京都】 ▶五味秀春
- 【神奈川県】 ▶神林洋行
- 【京都府】 ▶内山直哉

### ■市内■

- 【団体】 ▶岩手県立久慈東  
高等学校家庭クラブ ▶荷軽部  
自治会

### ■口座振替等■

- 【団体】 ▶ニカワアキヒサ
- 【その他】 ▶匿名1件

## 寄付金

### ■県外■

- 【大阪府】 ▶三好雅美
- 【その他】 ▶匿名1件

### ■市内■

- 【団体】 ▶歌の会なかま

## 義援金ご協力を

### ▶受付期間

平成26年3月31日まで

### ▶受付場所(現金)

- ①社会福祉課(市役所1階)
- ②山形総合支所③各支所(宇部、侍浜、山根)

### ▶その他の受付方法

現金書留、口座振込も受け付けています。詳しくは問い合わせください。

社会福祉課 ☎ 52-2119



# 再確認しよう！「津波警報」

マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、津波の高さを「巨大」、「高い」という言葉で発表します

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください	木造家屋が全壊・流失し、人は津波の流れに巻き込まれる
	10m			
	5m			
津波警報	3m	高い		標高の低い場所では、津波による浸水被害が発生する
津波注意報	1m	(表記しない)	海岸付近にいる人は、ただちに海岸から離れてください	海の中では、養殖いかだが流失。人は速い流れに巻き込まれる

巨大地震の場合、正しい地震の規模をすぐに把握できないため、最大級の津波を想定して津波警報を発表します。最初の津波警報では、予想される津波の高さを言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

## INFORMATION



「夏井橋」バス停留所前の避難階段



大湊公葬地前に設置された避難階段

# 津波避難階段を設置

八戸・久慈自動車道久慈道路

三陸国道事務所では、津波などの災害時に、高台の道路脇に避難できるよう、夏井町大崎地内の八戸・久慈自動車道久慈道路に、幅2.5mの津波避難階段を2カ所設置しました。階段通路は、避難場所やバス停留所付近のわかりやすい場所に設置。通常、進入扉の鍵はかけられていますが、緊急時には、扉に付けられたプラスチックのカバーを突き破り、反対側のノブを回すことで扉を開け、階段から高台へ避難することができます。

三陸国道事務所交通対策課  
☎ 0193-71-1718



高台の避難場所に向かう長内町玉の脇地区の住民

# 意識する

自分の命は「避難」で守る  
避難するために行動する

## 忘れないために

震災後、地域住民が防災活動を行う「自主防災組織」が市内各地で結成され、避難訓練で住民を誘導したり、地域内で自主的な防災訓練を行うなど、防災意識の高まりが感じられます。

一方で、避難訓練を終えた参加者から「昨年より震災の気持ち薄れてきた感じがするね」と意識の低下を心配する声も聞かれました。

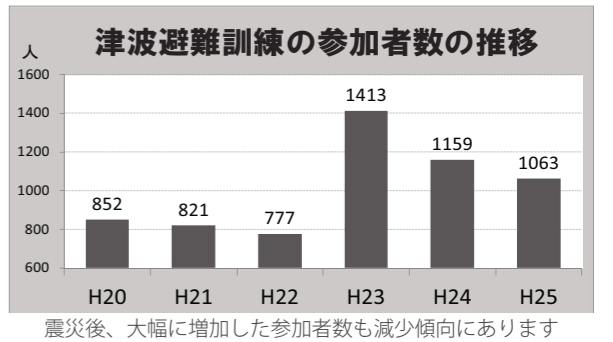
訓練の参加者数は、震災直後をピークに年々減少。参加する顔触れも固定化し、避難する意識が薄れてきている現状が見られます。



「訓練に参加する姿を子どもたちに見せなければ」と話す黒沼町内会の黒沼繁樹会長

久慈湊地区自主防災会連合会として夏井駅前・大湊地区の訓練に参加した黒沼町内会長の黒沼繁樹さんは「大人が訓練に参加しないと、子どもも来ません。災害弱者への支援も考えなければならぬ」と今後の課題を挙げました。

震災の教訓を忘れないため、自ら訓練に参加し、防災意識を持ち続けることが重要です。



# 風化させない

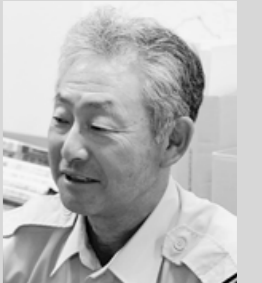
「自分の命は自分で守る」という言葉を聞いたことがあると思います。しかし、その意味を理解し、行動できているでしょうか。

子どもたちは、学校などで避難訓練の大切さを学びますが、大人が横断歩道で手を上げないように、避難する姿勢を示さなければ、子どもたちの意識も薄れていくかもしれません。次の世代に震災の教訓を伝えるためにも、今の私たちが教訓を意識し、訓練に参加すること。そして、その姿を子どもたちに見せることが必要かもしれません。

災害は忘れたころにやってきます。「自分の命は避難で守る」。そのための行動が訓練です。震災の教訓を風化させることなく、毎年の避難訓練に参加し、防災の意識を一緒に高めていきましょう。

## INTERVIEW

### 「自分のため」意識を持って参加を



西川一弘 久慈消防署長

避難訓練の参加者は、震災前に比べて多いものの、減少しているのは事実。住民の意識も下がりつつあります。

東日本大震災の教訓を風化させることなく次世代に伝えることが私たちの義務です。地震の後は津波が襲ってくることを常に頭に入れ、「避難は自分のため」という意識を個々に持って、訓練に参加してほしいです。